

会員 各位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会  
教育研修委員会委員長 吉村 美毅  
セミナー委員会委員長 今関 哲夫

## 第15回 技術交流会における 技術紹介申し込み受付のご案内

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

会員相互の技術交流および業務の活性化ならびに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、第15回技術交流会を下記の要領で開催致します。

技術交流会の開催案内については当協会 HP、JEAS ニュース、環境新聞に掲載するほか、関係官庁、自治体、学会等にも行い、発表内容については当協会 HP、JEAS ニュースに掲載します。特に、JEAS ニュースは、会員のほか、約1,300箇所の関係官庁、自治体、大学、学会等へ配布していますので、発表者や所属企業のPRにも大いに役立つものです。

技術交流会での発表演題は、添付の資料1の通り多岐にわたります。この技術交流会は、技術だけでなく、会員内外の交流の場、会員会社のPRの場、ビジネスチャンスの場、若手育成の場としても活用することを期待しております。

つきましては、ご多用中のことと拝察いたしますが、なにとぞ奮って、技術紹介の申し込みをくださいますようご案内申し上げます。

### － 記 －

1. 名 称 第15回技術交流会

2. 開催趣旨

環境アセスメント業務は事業別・環境要素別に、調査計画から現地調査・解析、予測・評価、環境保全対策、報告書作成、住民説明等、幅広い技術とノウハウが必要です。

当協会の会員は、環境アセスメントに関するそれぞれの得意な分野と技術を有しており、これら蓄積された技術やノウハウについて、会員相互に紹介・PRすることにより、会員各社の業績向上・発展に資するものと考えられます。また、会員の有する技術を内外に発信することにより、環境アセスメントの技術普及や人的ネットワーク形成などを図ることができるものと考えられます。

3. 開催日時 令和元年12月5日(木) 13:30～17:00(予定)

※会場設営は12:30から可能

4. 会 場 ワテラスコモンホール

東京都千代田区神田淡路町2-101 ワテラスコモン3階

<http://www.waterrascommon.com/hall.html>

## 5. 技術紹介の内容

- (1) 環境アセスメント関連技術
- (2) その他自社の環境配慮型技術一般

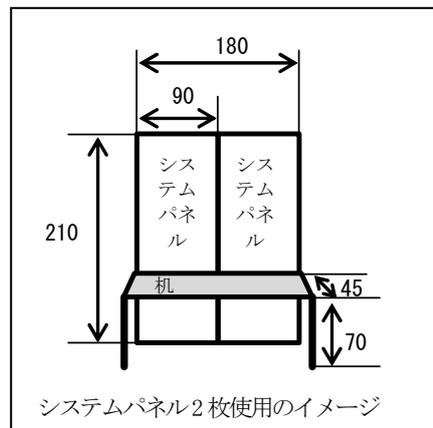
昨年度の技術交流会アンケートにおいて、「今後、発表してほしい技術テーマ、内容」としてあげられたものを以下に記載します。

- ・観光利用による自然資源への影響
- ・再生可能エネルギー関係
- ・AI 技術、画像解析、IoT の開発・活用事例
- ・各種シミュレーション事例
- ・都市環境の評価手法（風環境、ヒートアイランド、都市景観、交通等）
- ・海外ミティゲーション事例
- ・生物多様性、SDGs、地域創生
- ・調査の新技术、最新のセンサー
- ・グリーンインフラ
- ・環境DNA、バイオリギング、NGS
- ・ドローン、GIS
- ・鳥類3Dカメラ

## 6. 技術紹介の形式

- (1) 口頭発表（プレゼン） 発表時間 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）
- (2) 展示発表 パネルサイズ 1 枚の場合 90 cm（幅）×210 cm（高さ）  
2 枚の場合 180 cm（幅）×210 cm（高さ）

- ※1 発表内容は協会のホームページに掲載致します。
- ※2 展示発表はパネル 1 枚につき 2,200 円（1 枚当たり 税込）の実費がかかります。
- ※3 展示発表はパネル前に机を置くことも可能です。



## 7. スケジュール

- (1) 技術紹介申し込みの期限 8月30日（金）
- (2) プログラムの決定 10月下旬
- (3) 技術交流会参加の申込み 11月上旬

## 8. 申込方法

別紙申込書に必要事項を記入して、令和元年8月30日（金）までに協会宛に e-mail によりお申し込みください。

（一社）日本環境アセスメント協会 E-mail [asekyo@jeas.org](mailto:asekyo@jeas.org)

## 9. その他

- (1) 発表時間は申込み件数により調整させていただくことがあります。
- (2) 会員からの発表希望の状況により、非会員からの応募を受け付けることがあります。
- (3) 技術交流会への参加募集は非会員も対象とします。
- (4) 開催案内は当協会 HP、JEAS ニュース、環境新聞に掲載するほか、関係官庁、自治体、学会等にも別途案内をする予定です。当協会 HP、関係官庁、自治体、学会等への開催案内では、プログラムにおいて発表演題、発表者名、所属を掲載します。
- (5) 発表内容については、後日、当協会 HP (<https://jeas.org/activity11/>)、JEAS ニュースに、発表演題、発表者名、所属、発表概要を掲載します。

以上

技術交流会における口頭発表演題

第14回 (2018年)	<p>1. 「エコロジカル・ランドスケープデザイン手法を活用した地熱発電所計画地シミュレーション支援ツールの開発」 清水建設(株) 橋本 純</p> <p>2. 「グリーンインフラの社会実装に向けた課題と民間事業者の役割」 いであ(株) 幸福 智</p> <p>3. 「瀬切れ河川における魚類の生息状況変化に関する調査・検討」 八千代エンジニアリング(株) 林 宏樹</p> <p>4. 「環境DNA技術の紹介～外来淡水エビを例として～」 (株)日本海洋生物研究所 平岡 礼鳥</p> <p>5. 「貝殻ポーラスコンクリート「カルベース」の増殖効果について」 海洋土木(株) 内山 幸之助</p> <p>6. 「3次元カメラ手法による鳥類飛翔調査」 (一社)電力中央研究所 竹内 亨</p>
第13回 (2017年)	<p>1. 「携帯端末を活用した住民との合意形成ツール」 清水建設(株) 宮瀬 文裕</p> <p>2. 「デジタル画像を用いたアオコ判定システムの自動化に向けた基礎的検討」 八千代エンジニアリング(株) 岡本 佳子</p> <p>3. 「風力発電所に係る調査・予測の取組み」 ムラタ計測器サービス(株) 大西 裕介</p> <p>4. 「ドローンを利用した森林観測技術 -ミャンマーでの研究事例」 アジア航測(株) 和田 幸生</p> <p>5. 「外来種に頼らないで、のり面緑化をどう行うか」 (株)大林組 寺井 学</p>
第12回 (2016年)	<p>1. 「船舶レーダーを用いた鳥類調査へのとりくみ」 FRS コーポレーション(株) 徳島 秀彦</p> <p>2. 「環境アセスメントにおけるキノコ・蘚苔類・地衣類調査」 (株)環境指標生物 池田 英彦</p> <p>3. 「身近な危険生物「スズメバチ」について」 (株)建設技術研究所 野中 俊文</p> <p>4. 「テレビ電波受信障害の変化について」 (株)ヤマトテレビシステム 横溝 孝幸</p> <p>5. 「水底放射能測定装置「みなそこ」による底質土壌の放射性セシウム濃度オンサイト測定」 (株)環境総合テクノス 生野 元昭</p>
第11回 (2015年)	<p>1. 「生物多様性配慮型、企業緑地の動向とABINC(エイビング)認証制度について」 (一社)いきもの共生事業推進協議会 安斉 健雄</p> <p>2. 「バルーンを用いたコウモリ類の飛翔高度の計測」 アジア航測(株) 鈴木 健一</p> <p>3. 「生物多様性簡易評価ツール「いきものコンシェルジュ」の開発」 大成建設(株) 渡邊 千佳子</p> <p>4. 「常磐線特定環境影響評価」 (株)復建技術コンサルタント 池澤 紀幸</p> <p>5. 「火力発電所用大気アセスメント支援ツールの開発」 (一財)電力中央研究所 佐藤 歩</p> <p>6. 「インターネットを利用した気象観測システム」 (株)風工学研究所 猿川 明</p> <p>7. 「虫を食べる～昆虫食の紹介～」 (株)建設技術研究所 野中俊文</p> <p>8. 「放射性物質の環境影響評価のためにホットスポットと平均線量率で測定評価する方法」 エヌエス環境(株) 内田英夫</p>
第10回 (2014年)	<p>1. 「指向性アナウンス安全看板の適用事例紹介」 清水建設(株) 宮瀬文裕</p> <p>2. 「水底放射能測定装置「みなそこ」の開発」 (株)環境総合テクノス 生野元昭</p> <p>3. 「最新技術を用いた道路環境アセスメントにおける事後調査手法」 (株)地域環境計画所 園田陽一 神奈川県 松江正彦 国土交通省国土技術政策総合研究所 上野裕介、栗原正夫</p> <p>4. 「沿岸環境保全を通じた社会・経済・環境の好循環～横浜ブルーカーボンの挑戦～」 八千代エンジニアリング(株) 岩本 淳</p> <p>5. 「プラスティネーション標本で生き物を実感する」 日本エヌ・ユー・エス(株) 岡 薫・堀内 和司</p> <p>6. 「野生鳥獣の効率的な利用～エゾシカを例として～」 (株)建設技術研究所 野中俊文</p>
第9回 (2013年)	<p>1. 「強風対応型樹木支柱「シミズ・ラッピングサポート」の開発」 清水建設(株) 渡辺高史</p> <p>2. 「投入設備一体型溶融炉によるアスベストの高効率無害化処理システム」 飛鳥建設(株) 内田季延</p> <p>3. 「都心部複合ビルの屋上庭園において生物多様性の向上を目指した事例」 (株)大林組 松原隆志</p> <p>4. 「動植物・環境モニタリングツール「いきものnote®」」 鹿島建設(株) 越川義功</p> <p>5. 「湿地に生育する稀少植物の保全方法検討のための実験－種子発芽個体の定着環境－(ヒメハッカを例として)」 (株)ポリテック・エイディディ 板坂亜希子</p> <p>6. 「人工巣補修の効果」 八千代エンジニアリング(株) 山内可奈子</p> <p>7. 「外来ザリガニの食用利用について－外来種の取り扱いに関する検討－」 (株)建設技術研究所 野中俊文</p>

### 技術交流会における展示発表演題

第14回 (2018年)	1. 「バイオリギングを用いたトラフグの産卵生態調査事例」 2. 「環境分野におけるUAV活用の検討」 3. 「エコロジカル・ランドスケープデザイン手法を活用した地熱発電所計画地のシミュレーション支援ツールの開発」 4. 「市民参加の「人と自然とのふれあい調査」～（公財）日本自然保護協会の取組みより」	三洋テクノマリン(株) ムラタ計測器サービス(株) 清水建設(株)、(株)風景デザイン研究所 (公財) 日本自然保護協会
第13回 (2017年)	1. 「EADASについて」 2. 「ミャンマーにおける森林減少・劣化防止のための支援活動—ドローンと衛星リモートセンシングを利用した森林モニタリング事例—」 3. 「アニマルパスウェイ製作・建設ガイド」 4. 「緑の認定 SEGES (シージェス) 都市のオアシス」	環境省 アジア航測(株) (一社)アニマルパスウェイと野生生物の会 (公財)都市緑化機構
第12回 (2016年)	1. 「ABINCの活動理念、認証サイト一覧・分布」 2. 「水質放射能自動測定システムの開発」 3. 「水底放射能測定装置「みなそこ」による底質土壌の放射性セシウム濃度オンサイト測定」 4. 「ワイヤレス自動撮影カメラの紹介とクラウド活用の提案」 5. 「VRを用いた景観検討」	(一社)いきもの共生事業所推進協議会 (株)環境総合テクノス (株)環境総合テクノス (株)地域環境計画 日本工営(株)
第11回 (2015年)	1. 「環境調査への適用を目的とするGNSS利用地点設定システムの開発」	(株)環境研究センター
第10回 (2014年)	1. 「指向性アナウンス安全看板の紹介」 2. 「プラスチックネーション標本で生き物を実感する」 3. 「水底放射能測定装置「みなそこ」の開発」	清水建設(株) 日本エヌ・ユー・エス(株) (株)環境総合テクノス
第9回 (2013年)	1. 「海洋環境調査技術の紹介」 2. 「投入設備一体型熔融炉によるアスベストの高効率無害化処理システム」 3. 「Honda 寄居新工場における生物多様性保全に係る取組み」 4. 「国営昭和記念公園における生物関連情報の分析及び活用」	(株)環境総合テクノス 飛島建設(株) (株)ポリテック・エイディディ (株)緑生研究所
第8回 (2011年)	1. 「CCS モニタリングシステムの開発の紹介」 2. 「日本のレッドデータ検索システム・高機能自動撮影カメラ」 3. 「POINTSCOPE を使った生態調査手法について」 4. 「J E A S 協会活動の紹介、頒布図書を紹介」	(株)環境総合テクノス NPO法人野生生物調査協会 (株)地域環境計画 東電環境エンジニアリング(株) (一社)日本環境アセスメント協会

第15回 JEAS技術交流会  
技術紹介申込書

下記のとおり、技術紹介の参加を希望します。

宛 先：一般社団法人日本環境アセスメント協会

E-mail：asekyo@jeas.org FAX：03-3230-3876

所属名	
住 所	
発表者名	
連絡先	TEL
	FAX
	メール
技術紹介の種類 (複数可)	<input type="checkbox"/> 口頭発表 <input type="checkbox"/> 展示発表
タイトル	
技術紹介の要旨 [400字程度]  (開催案内時に「口頭発表 要旨」又は「展示内容」と して使用いたします)	

注) 1件の発表・展示等に対し申込書1枚としてください。複数の発表・展示等を希望される場合はこの申込書をコピーしてご使用ください。